

第8期柏市高齢者いきいきプラン2-1の方向性について

資料 2-2

2040年に向けた目標～基本理念を達成していること～【別紙1】
 すべての高齢者が、その人らしく、住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるまち 柏

理念の達成＝本人の幸福度が上がる

理念の達成を目指す

《目標》健康寿命の延伸【別紙2】

目標の達成（指標）＝
 ・要介護（要支援）認定が必要になる年齢を下げない
 ・フレイル予防に取り組む高齢者割合が上がる



現役世代から高齢者まで、誰もが主体的に健康づくりに取り組めるような働きかけを行うとともに、高齢者が積極的に社会参加できる多様な場づくりを通し、いきいきと生活できる環境整備を図ります。

元気な高齢者【自立～フレイル】

《目標》助けが必要でも住み慣れた地域で安心して暮らせる【別紙3】

目標の達成（指標）＝
 ・平均要介護度が下がる
 ・認知症のかたの在宅率が上がる



心身の活力が低下しても、多様な居場所への参加や生活の困りごとを支え合うことで、住み慣れた地域で暮らし続けられる共生の取り組みを進めます。

虚弱な高齢者【フレイル～中度】

《目標》介護度が重度であっても望む暮らしを選択できる【別紙4】

目標の達成（指標）＝
 ・介護を受けているかたの幸福度が上がる
 ・介護職の仕事への満足度が上がる



介護度が中・重度になっても、必要とするサービスが受けられるよう、計画的に介護基盤を整備するとともに、介護現場の生産性向上を通じた人材確保・育成を図ります。

介護が必要な高齢者【中度～重度】

目標の達成度を定点点観測していくことで

メリハリをつけて事業展開を行い

各事業のターゲットごとに



第8期計画策定のポイントを踏まえ

《目標》超高齢社会に向け、地域包括支援センターの機能強化や地域医療の推進などに取り組む、どのような状態のかたでも、一人ひとりの選択により、「意思が尊重され自立して暮らせる」下支えとなるまちづくりを進めます。【別紙5】



地域包括ケアシステムの強化推進を

第8期計画策定の6つのポイント

- ① 健康寿命を延伸する計画
- ② 介護度が重度でも望む暮らしを選択できる計画
- ③ 地域ごとの特色を踏まえた計画
- ④ 認知症でも安心して暮らせる計画
- ⑤ 現役世代が自分事として2040年を捉える計画
- ⑥ 2040年を見据えて一貫した進捗管理を行う計画

図出展：三菱UFJリサーチ&コンサルティング「＜地域包括ケア研究会＞地域包括ケアシステムと地域マネジメント」（地域包括ケアシステム構築に向けた制度及びサービスのあり方に関する研究※業）、平成27年度厚生労働省老人保健健康増進等事業、2016年

2040年に向けた目標～基本理念を達成していること～

1 基本理念と基本理念に込めた思い

基本理念	基本理念に込めた思い
すべての高齢者が	年齢や性別，健康状態を問わず，すべての高齢者が
その人らしく	全ての人の尊厳が尊重され，本人の意思で選択し，決定することができ，心豊かに自分らしく生きていける社会，一人一人が持てる能力を最大限に活かして，その人らしく生活できる
住み慣れた地域で	健康でも，誰かの支えが必要になっても，慣れ親しんだ地域でいつまでも暮らし続けていける
安心して	それぞれの生活環境や健康状態が異なっても，地域の支えあいや専門機関の支援などにより，前を向いて，将来に希望を持って生活していける
いきいきと暮らせるまち 柏	だれもが社会から孤立することなく，人のかかわりの中で生きがいを持ち，喜びや楽しみ，悲しみなどを共感し，わかちあえる関係の中で暮らしていける

2 理念の達成とは

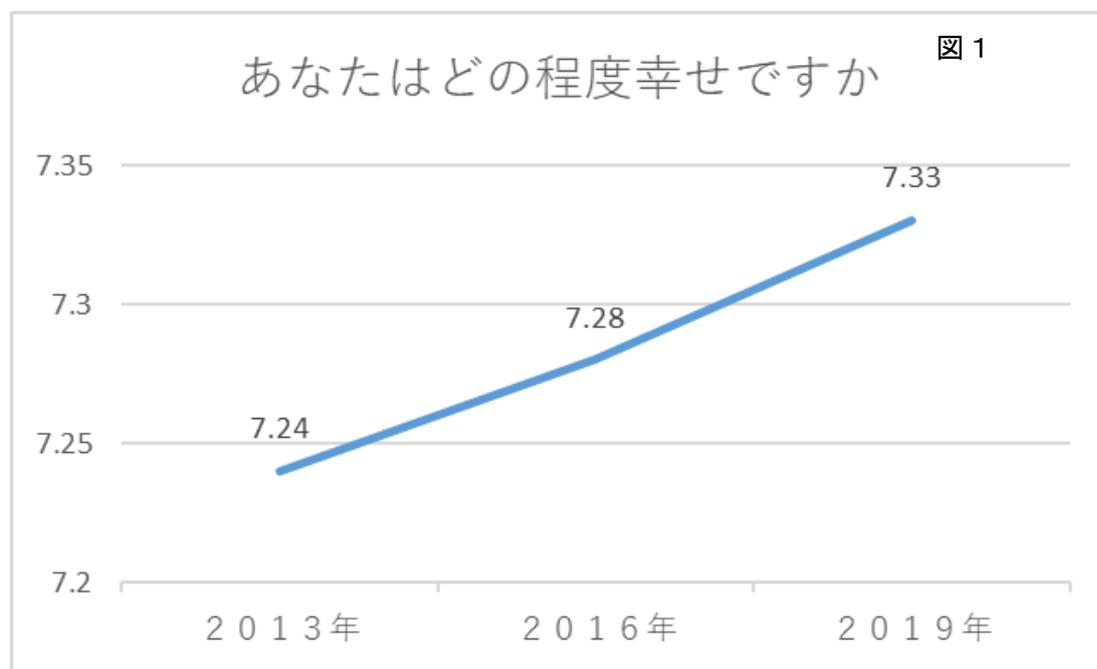
達成度を測る指標として，「高齢者の幸福度」を継続的に確認します。経年で確認する幸福度が増加することで，理念が達成できているかを確認します。

3 なぜ幸福度なのか

「人生100年時代」を迎え，2040年に向けて，世帯や体力・心身の状況など，さらに高齢者の多様化が進んでいくことが見込まれます。多様化が進むと，高齢者を平均像として捉えることが難しくなります。

また，理念の達成に向け，健康寿命の延伸などの各目標の達成を，介護初発の年齢を下げないなどの指標を用いて図っていきますが，それらが本人や家族の負担の増加に依らないことが必要です。

主観的な幸福度を指標とすることで，多様な高齢者が，本人や家族の負担を過大にすることなく，基本理念のように，いきいきと暮らせているかどうかを確認できます。



※健康と暮らしの調査より

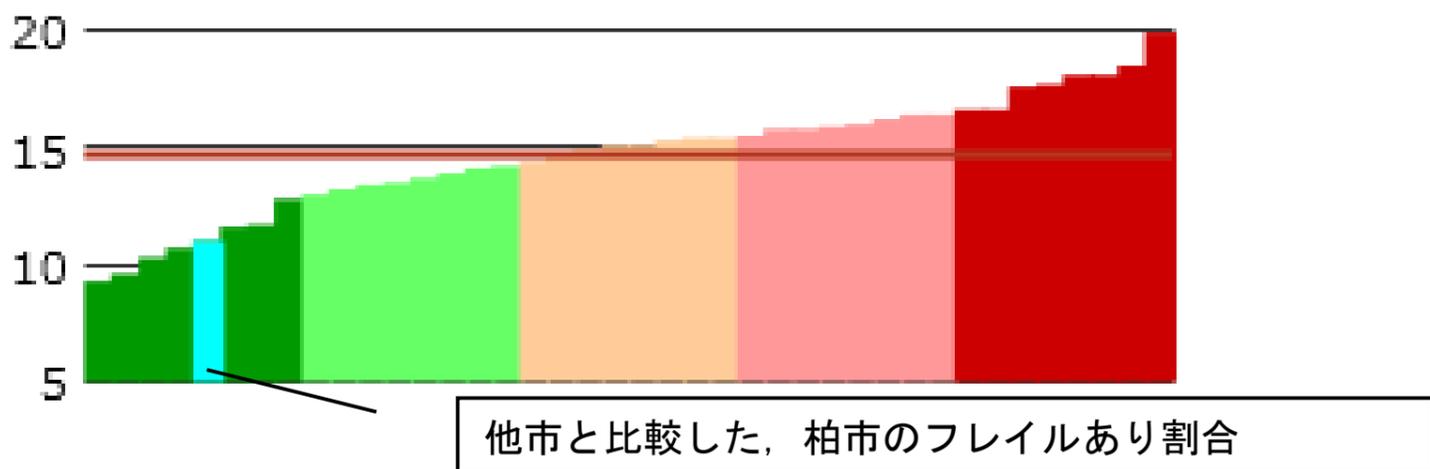
健康寿命の延伸

1 現状の課題と方向性

多くの方が、健康な状態から、心身の活力（筋力、認知機能、社会とのつながりなど）が低下したフレイルの段階を経て、要介護状態になると考えられています。健康と暮らしの調査の結果からは、柏市のフレイルあり割合は、他市と比してかなり低い状況となっています（図2-1）。また、市内の20圏域を2013年、2016年の調査結果で比較すると、フレイルあり割合が全体的に低減していることが分かります。しかし、地域により、下がり幅が大きい地域・小さい地域など様々です（図2-2）。

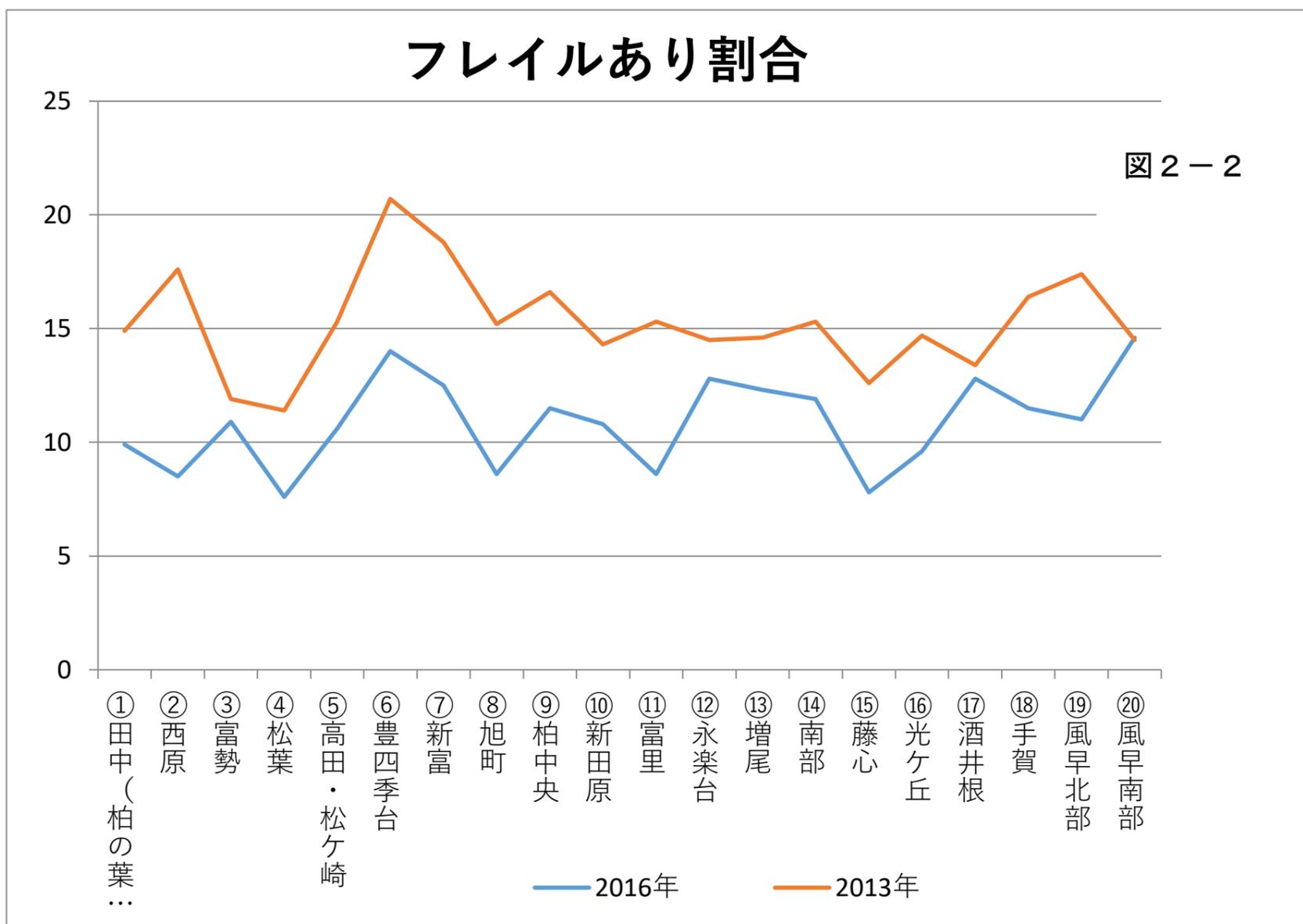
健康な状態を出来るだけ保ち、フレイルの状態にならないためには、現役世代のうちから定期的に健康診断を受けるなど、主体的な健康づくりの取り組みが重要です。また、高齢者になっても就労やスポーツ・趣味活動、ご近所のお困りごとを抱えた高齢者の支えあいなどの多様な社会参加を活発化することで、健康寿命の延伸と住み慣れた地域で暮らし続ける環境づくりにつなげる必要があります。

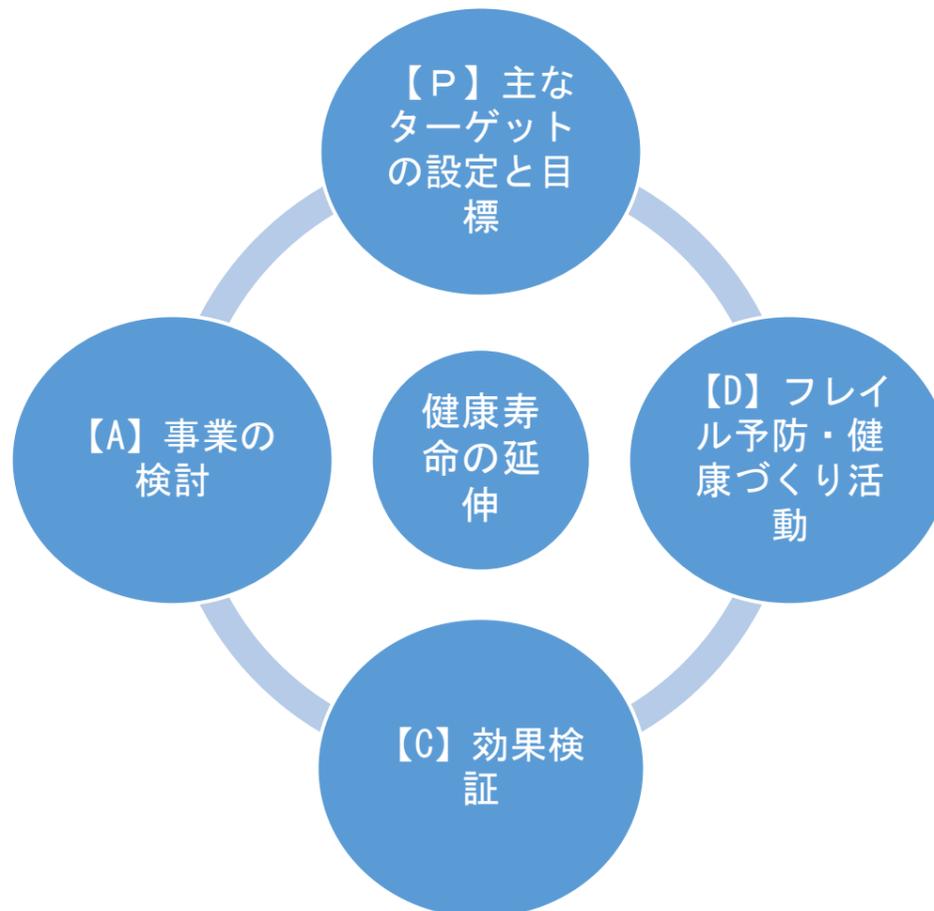
図2-1



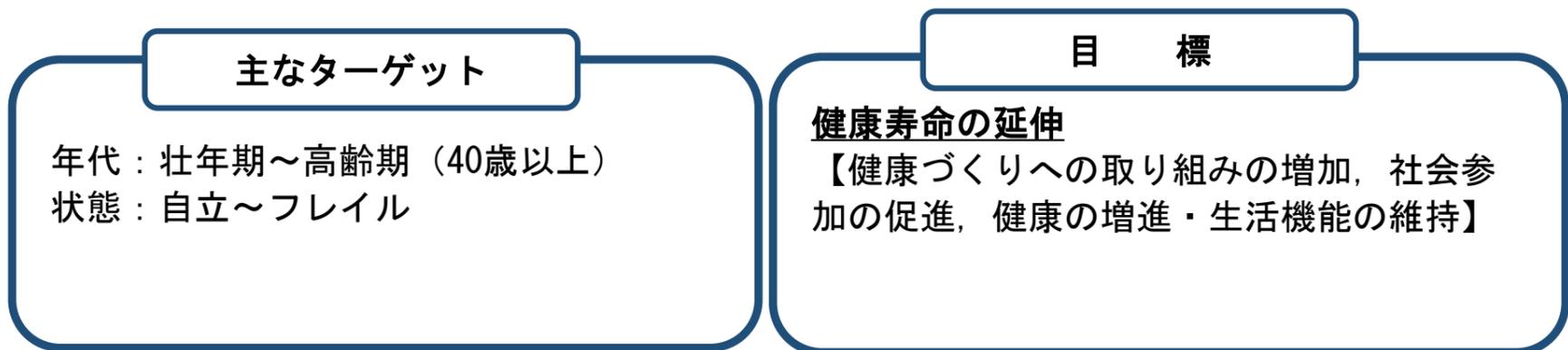
フレイルあり割合

図2-2





【Plan(計画)】主なターゲットの設定と目標



【Do(実行)】フレイル予防・健康づくりの推進

保健事業と介護予防の一体的実施
地域分析に基づく事業展開（JAGESシステム, GIS, 日常生活圏域データ, KDB等の活用）

フレイル予防・健康づくりの推進

【フレイル予防の推進】

- ・多様な社会参加の促進
（フレイル予防ポイント/ 居場所づくり / 就労支援 / 地域ボランティア育成支援等）
- ・地域特性に応じたフレイル予防の普及啓発
（フレイルチェック / 職能団体との連携によるフレイル予防の推進 等）

【生活習慣病対策の推進】

- ・特定健康診査・特定保健指導、75歳以上の健康診査の受診促進

【Check(評価)】効果検証

- ・フレイル予防システム（2020年度に構築，2021年度から本格稼働）による事業や活動種別ごとの効果検証（通いの場の参加率など）
- ・要介護（要支援）認定が必要になる年齢，フレイル予防に取り組む高齢者数の経年の確認

【Action(改善)】事業の検討

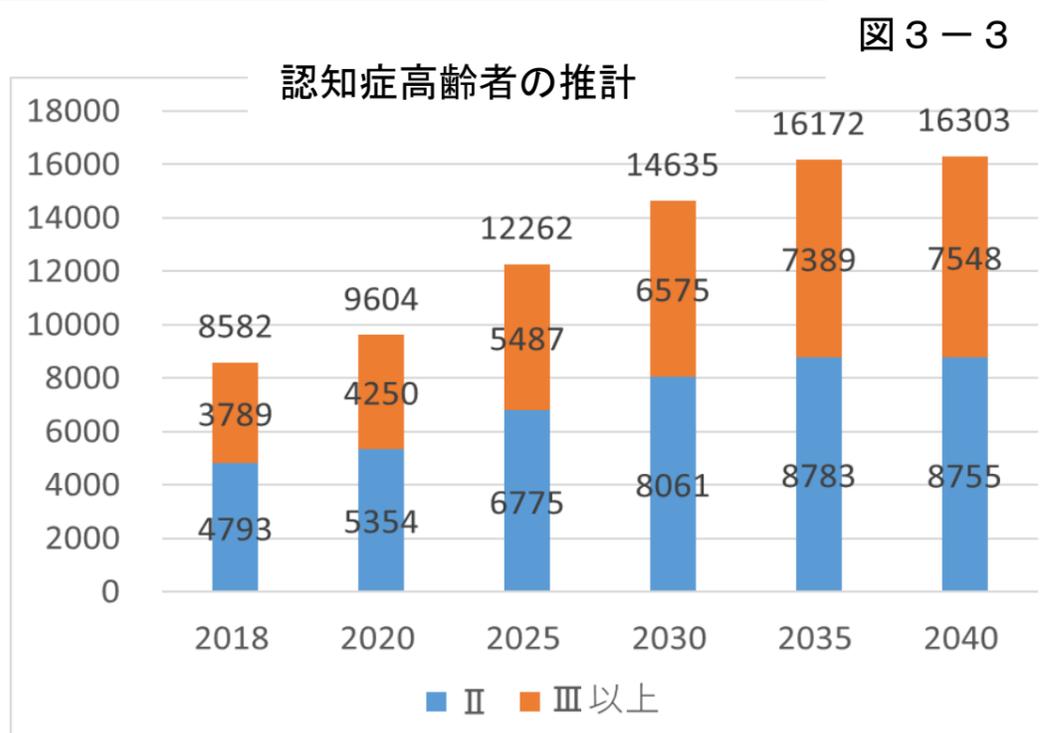
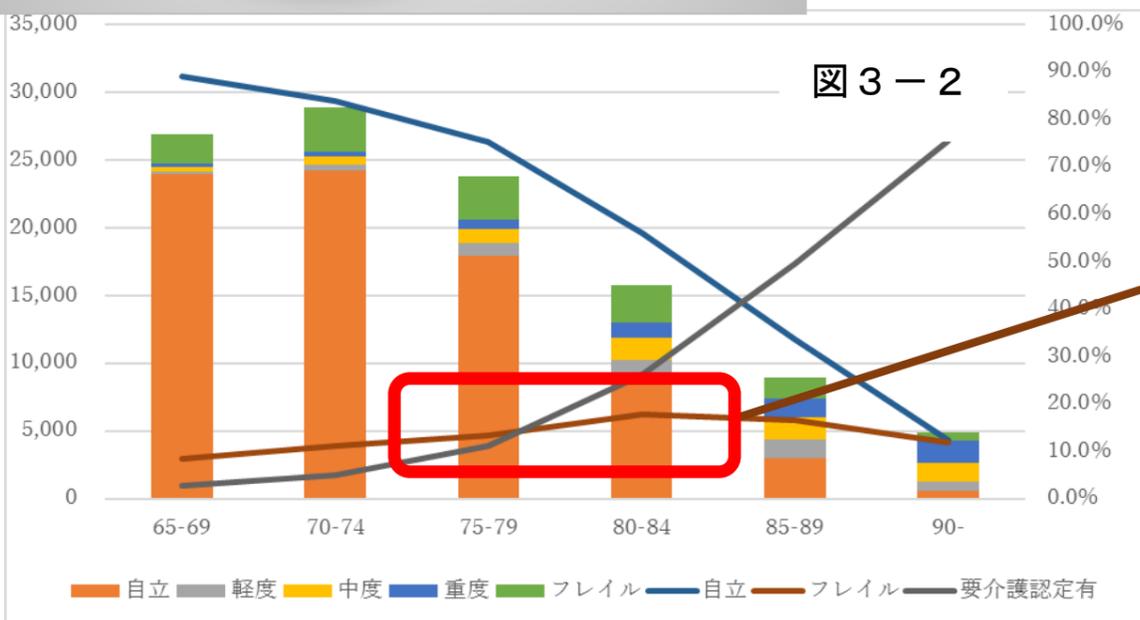
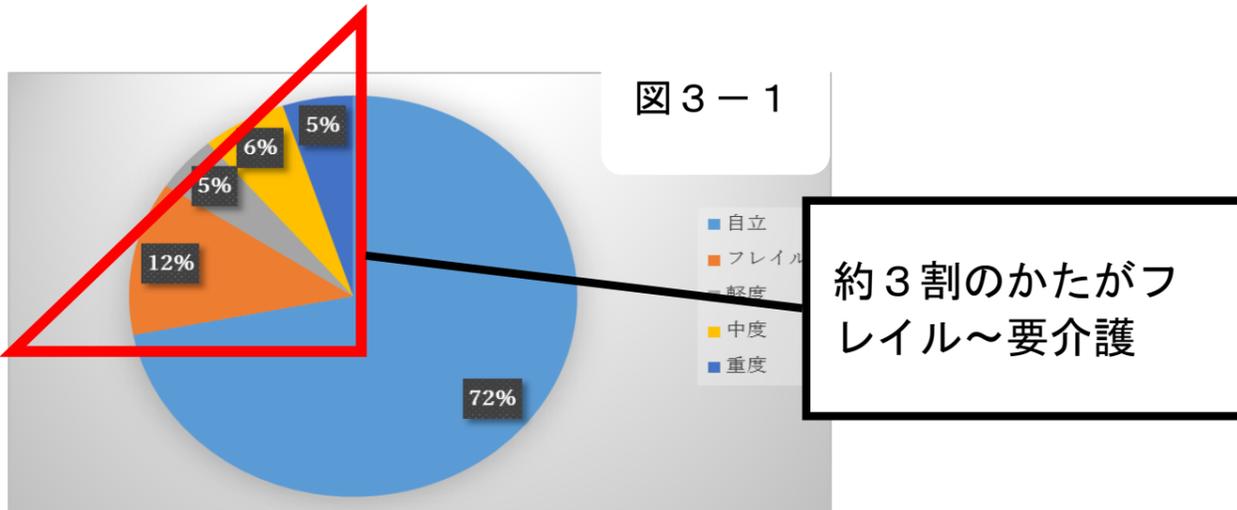
効果の高い事業への資源集中，効果の低い事業の廃止検討

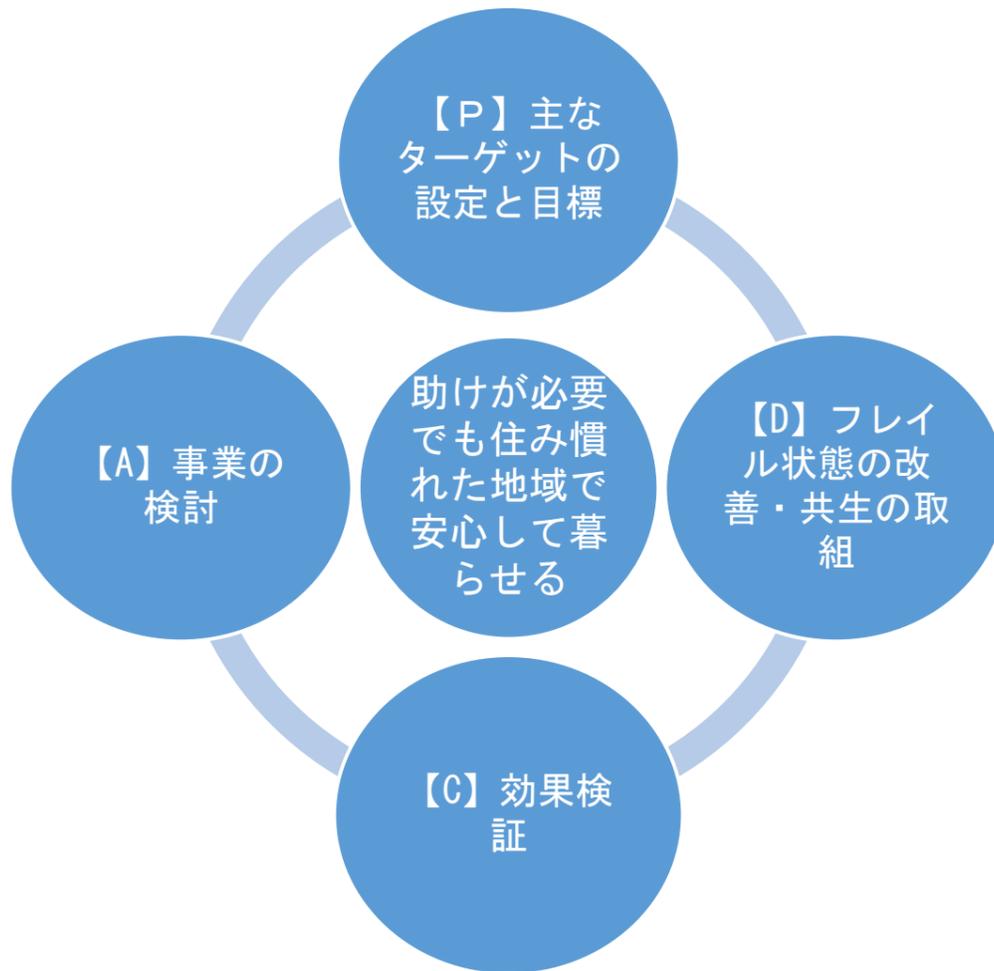
助けが必要でも住み慣れた地域で安心して暮らせる

1 現状の課題と方向性

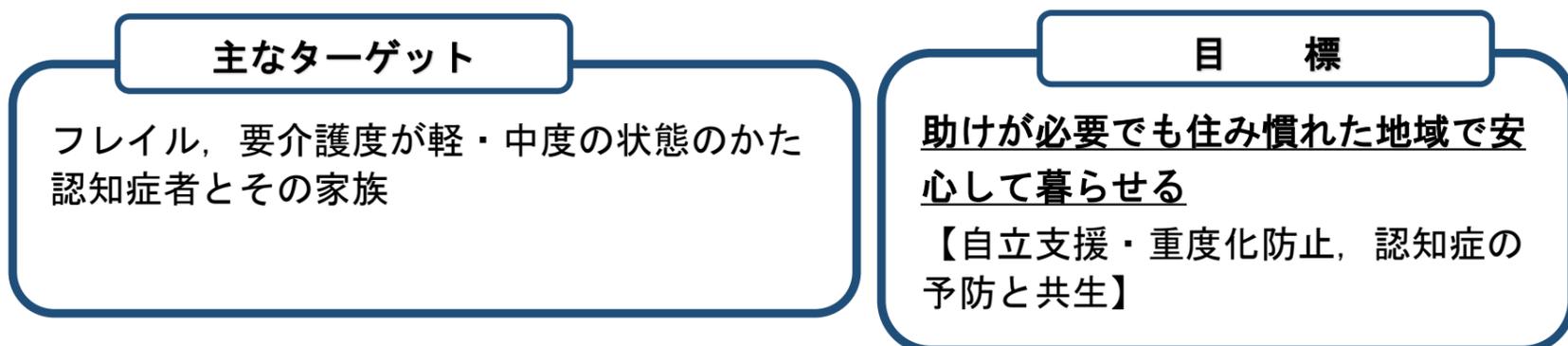
柏市民の高齢者のうち、10人に3人は、生活に誰かの助けを必要とするなど何らかの困りごとを抱えています（図3-1）。そのうち、フレイルのかたは、柏市全体で約13,500人、75～84歳では約6,000人と推計されます。

後期高齢者になると、介護が必要になるかたの割合が増加していきませんが、フレイル状態改善の高い効果が見込める層へのアプローチを重点的に行うとともに（図3-2）、高齢化の進展による認知症高齢者の増加に対しては（図3-3）、認知症の発症や進行を遅らせる取り組みと、認知症のかたやその家族が住み慣れた地域で暮らし続けられる「共生」の取り組みを進めていく必要があります。

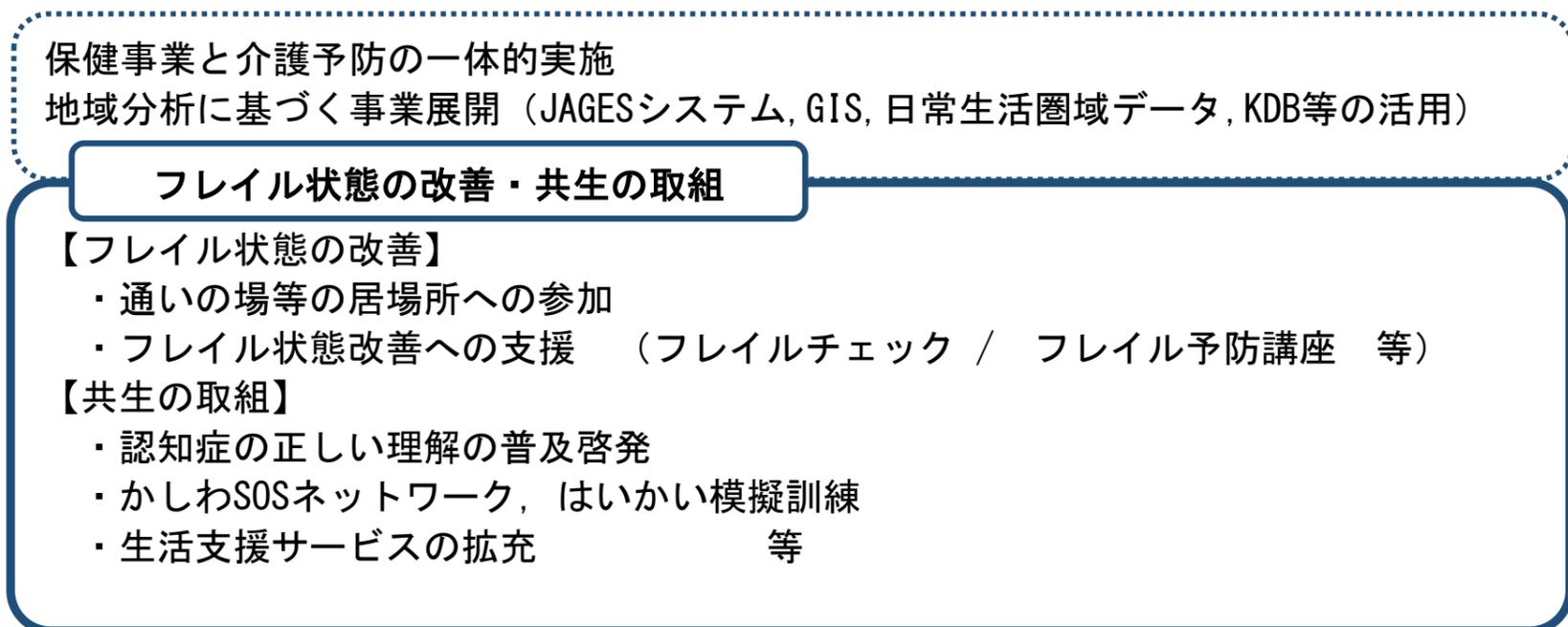




【Plan(計画)】主なターゲットの設定と目標



【Do(実行)】フレイル状態の改善・共生の取組



【Check(評価)】効果検証

- ・フレイル予防システム (2020年度に構築, 2021年度から本格稼働) による事業や活動種別ごとの効果検証 (通いの場に参加する高齢者の状態の維持・改善状況等)
- ・平均要介護度, 認知症のかたの在宅率の経年の確認

【Action(改善)】事業の検討

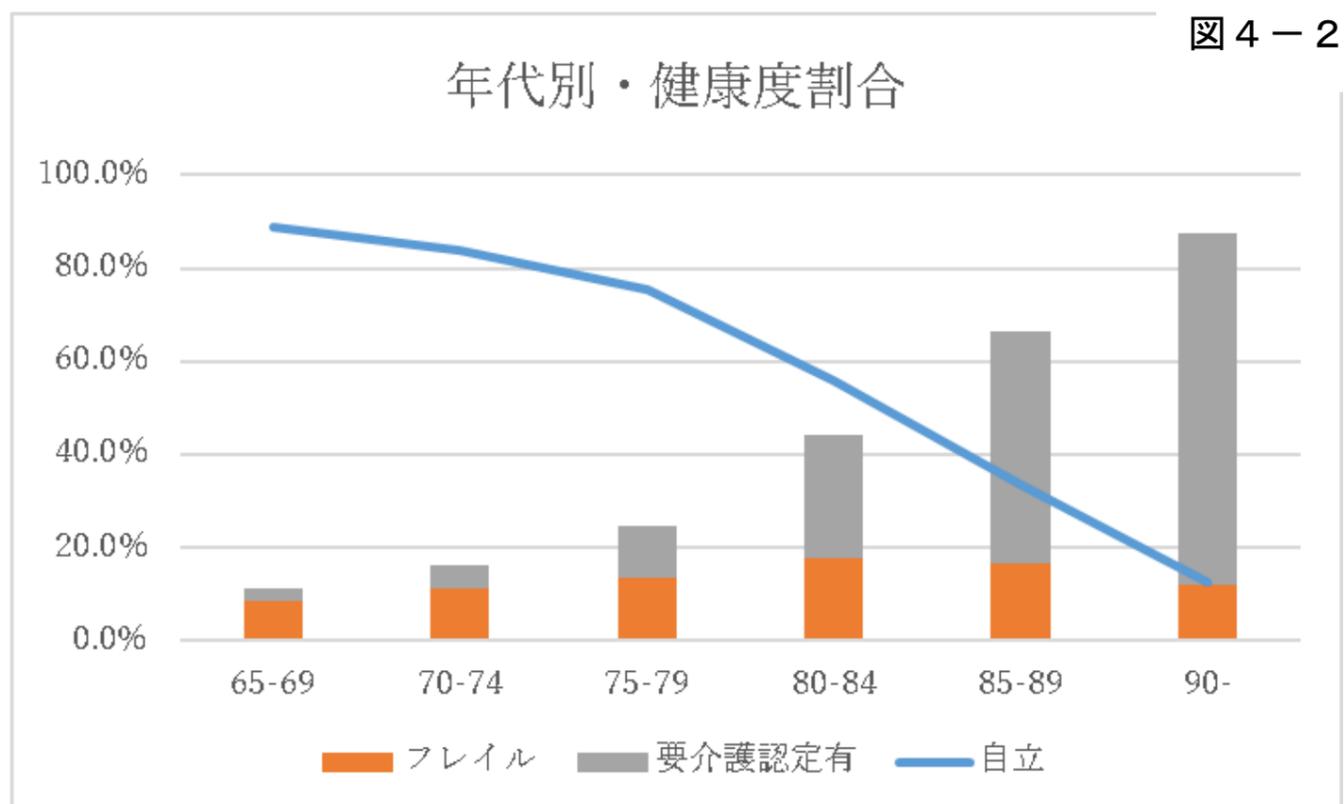
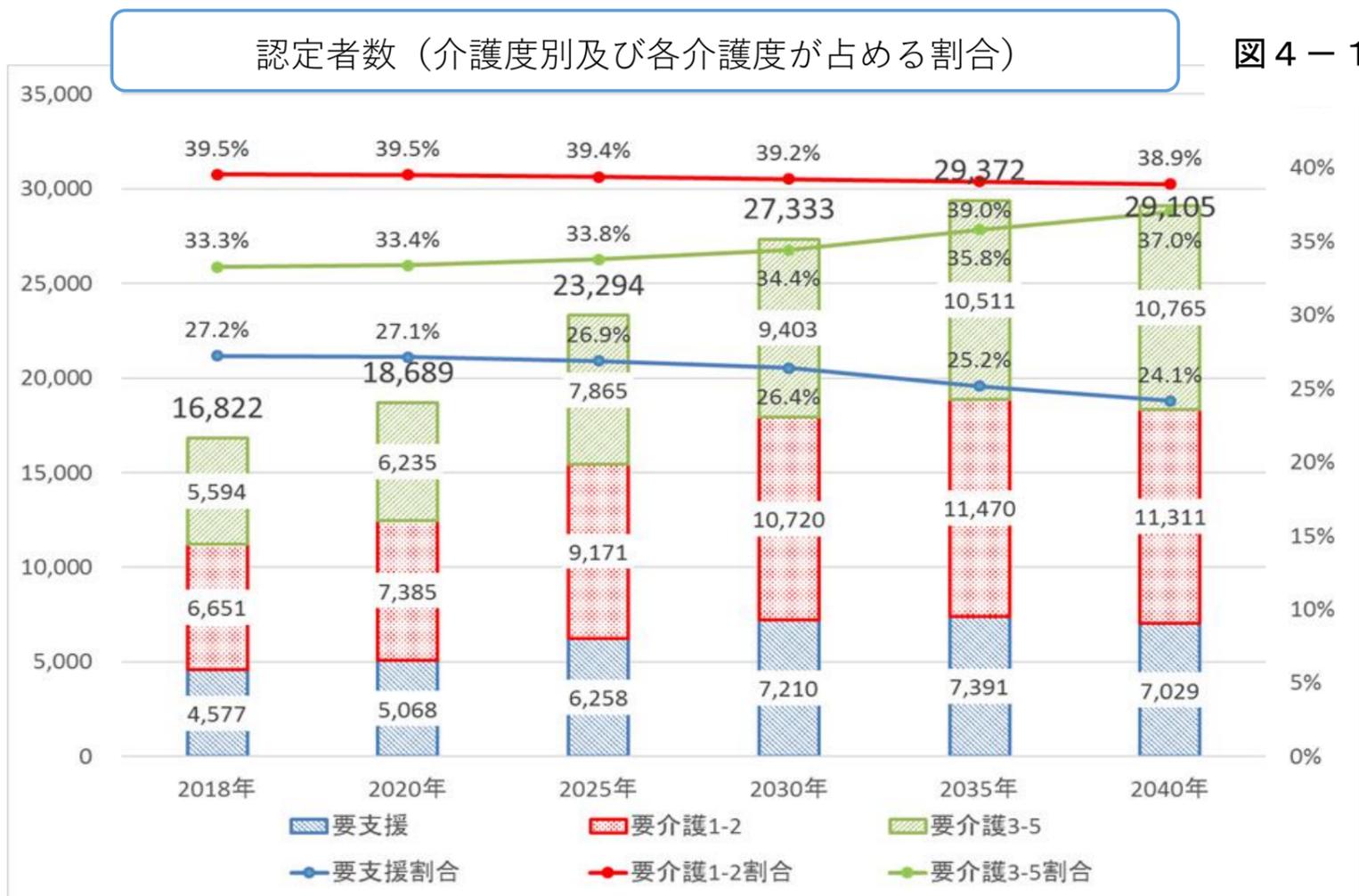
効果の高い事業への資源集中, 効果の低い事業の廃止検討

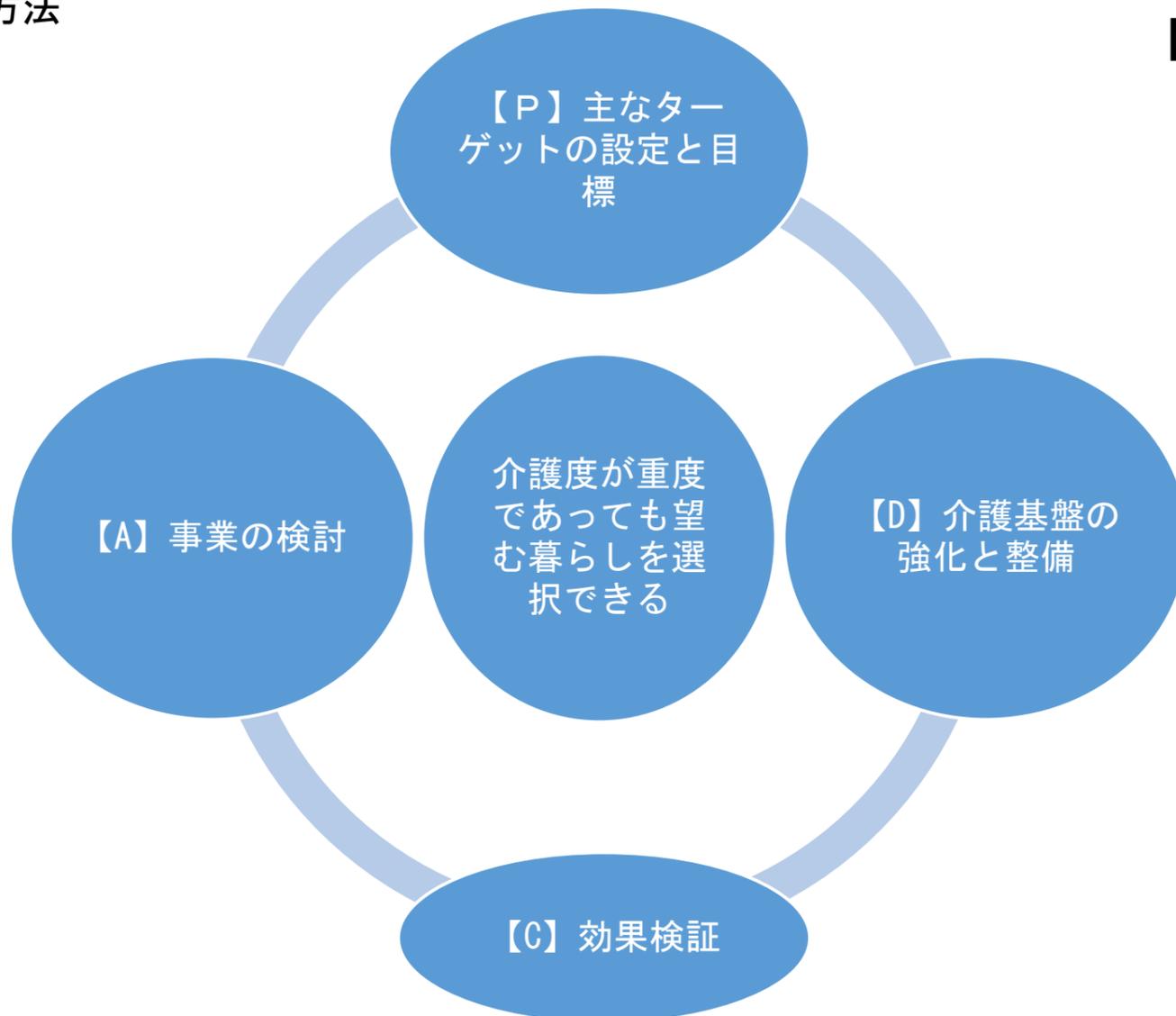
介護度が重度であっても望む暮らしを選択できる

1 現状の課題と方向性

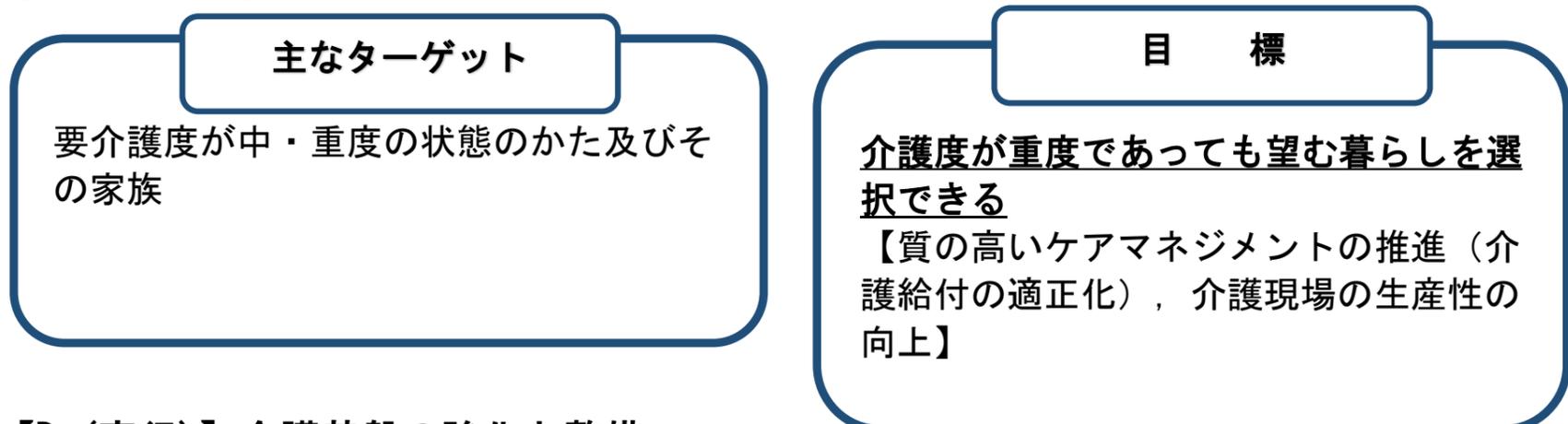
超高齢社会がさらに進展し、高齢者の高齢化が進むことで、介護や医療が必要になるかたは増加していきます（図4-1, 4-2）。介護や医療が必要になっても、本人やその家族が望む暮らしを、最期まで選択できることが重要です。

そのためには、中長期の要介護認定者の増加を見据え、介護保険制度の持続可能性を維持できるよう、計画的に介護基盤の整備を図る必要があります。また、在宅医療・介護連携や、介護現場の生産性向上による人材の確保（定着）・育成、生産性の向上を行い、サービスの質の向上とともに、様々なニーズに対応できる受け皿を確保する必要があります。

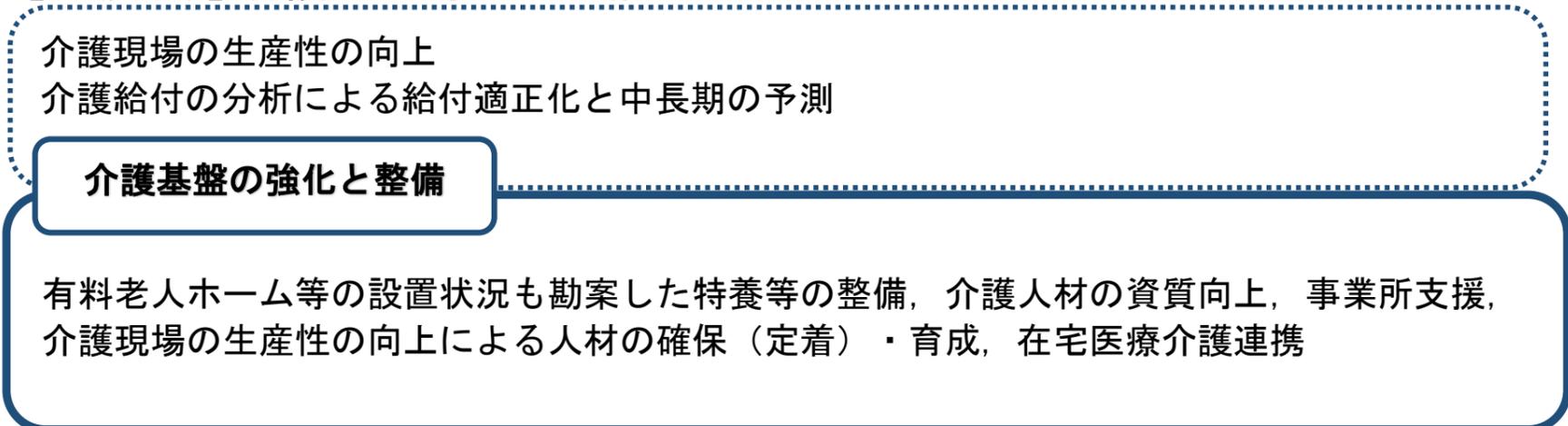




【Plan(計画)】主なターゲットの設定と目標



【Do(実行)】介護基盤の強化と整備



【Check(評価)】効果検証

・介護を受けている人の幸福度、介護職の仕事への満足度、就労を問題なく続けている人の割合、フレイル予防ポイント登録者（支え手）数の経年の確認

【Action(改善)】事業の検討

サービスの需給や中長期の高齢者人口の増加、支え手の減少を見据えた介護基盤の強化と整備の方針の検討。

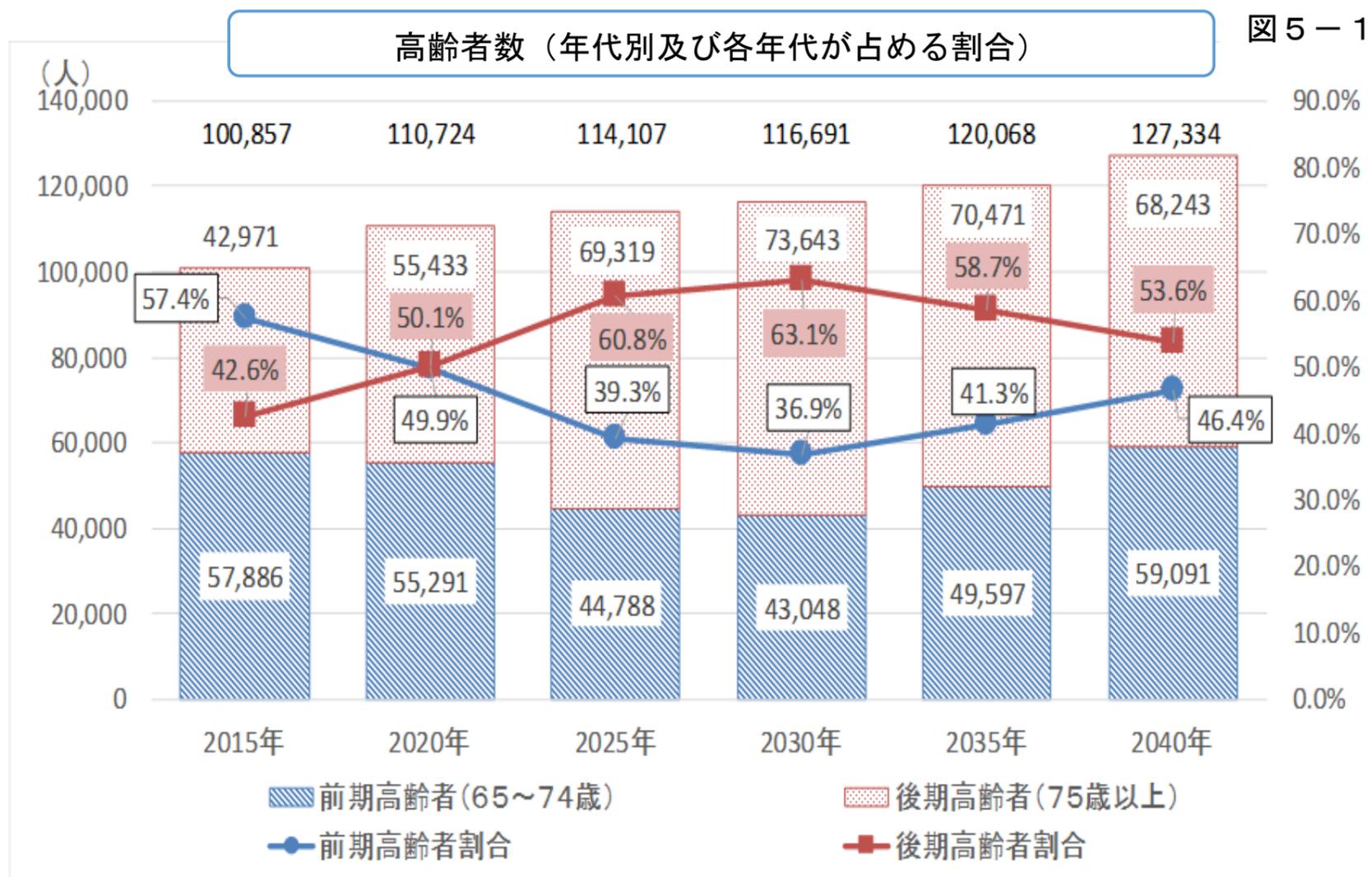
意思が尊重され自立して暮らせる

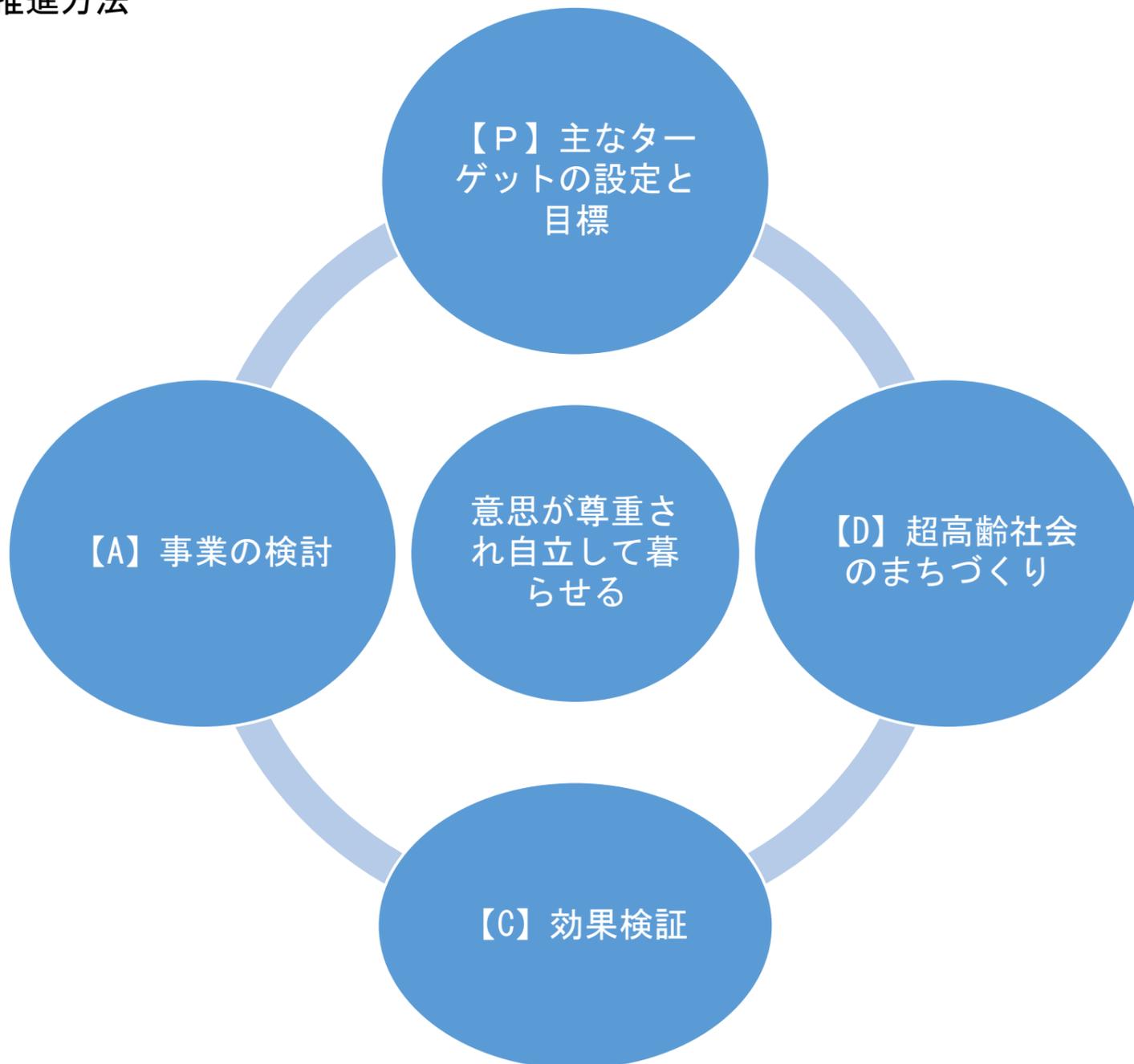
1 現状の課題と方向性

2020年度には、前期高齢者より後期高齢者の割合が高くなることを見込まれます。「人生100年時代」を迎え、超高齢社会が更に進展する中、健康状態や暮らしかたなど、高齢者像は更に多様化していくことを見込まれます（図5-1）。

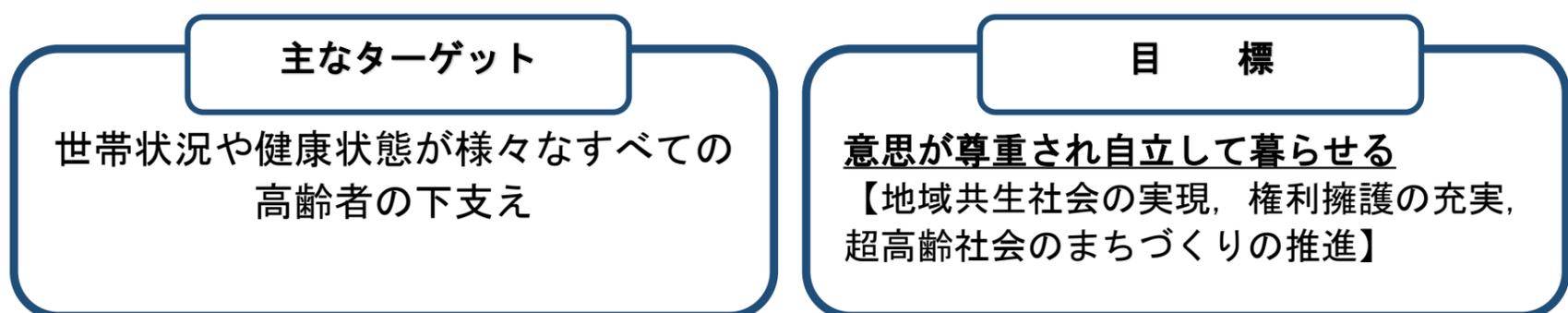
どのような健康状態や暮らし方であっても、一人ひとりの意思・選択が尊重され、有する能力に応じて自立した生活を送っていただける、地域共生社会の実現が必要です。

そのためには、地域包括支援センターの機能強化、地域医療の推進などに取り組み、一人ひとりの意思決定に可能な限り寄り添い、当たり前の生活が継続できる環境を整備する必要があります。





【Plan(計画)】主なターゲットの設定と目標



【Do(実行)】超高齢社会のまちづくりの推進

住まい困窮者や交通弱者への対策, 地域包括支援センターの相談体制の強化, 多様な生活支援等サービスの提供・情報発信

【Check(評価)】効果検証

住んでいる地域に愛着があると答えた人の割合, 住みやすいと思う割合, 地域の中で安心して生活できていると感じている人の割合の経年の確認

【Action(改善)】事業の検討

効果の高い事業への資源集中, 効果の低い事業の継続検討